‘01　冬山合宿報告書

赤石山脈　塩川～荒川岳

01．12．27～12．31　　CL．**板倉，亀山，鈴木**

デンソー山岳部

【冬山合宿を振り返り】

(計画)　年度計画に従い、春、偵察を通じて荒川岳を取り上げ取り組んできたため、比較的スムーズに計画が進んだ。しかし、現状の部の活動内容、活動レベルを考えると荒川岳という目標は、万人には向かず、少人数での山行になったことは残念であった。
また、計画についても樹林帯の長さを考えるともう一日計画が必要であったことを今後の冬山計画の参考にしたい。(今回は、夏山、偵察時のスムーズなイメージで楽観視していた)

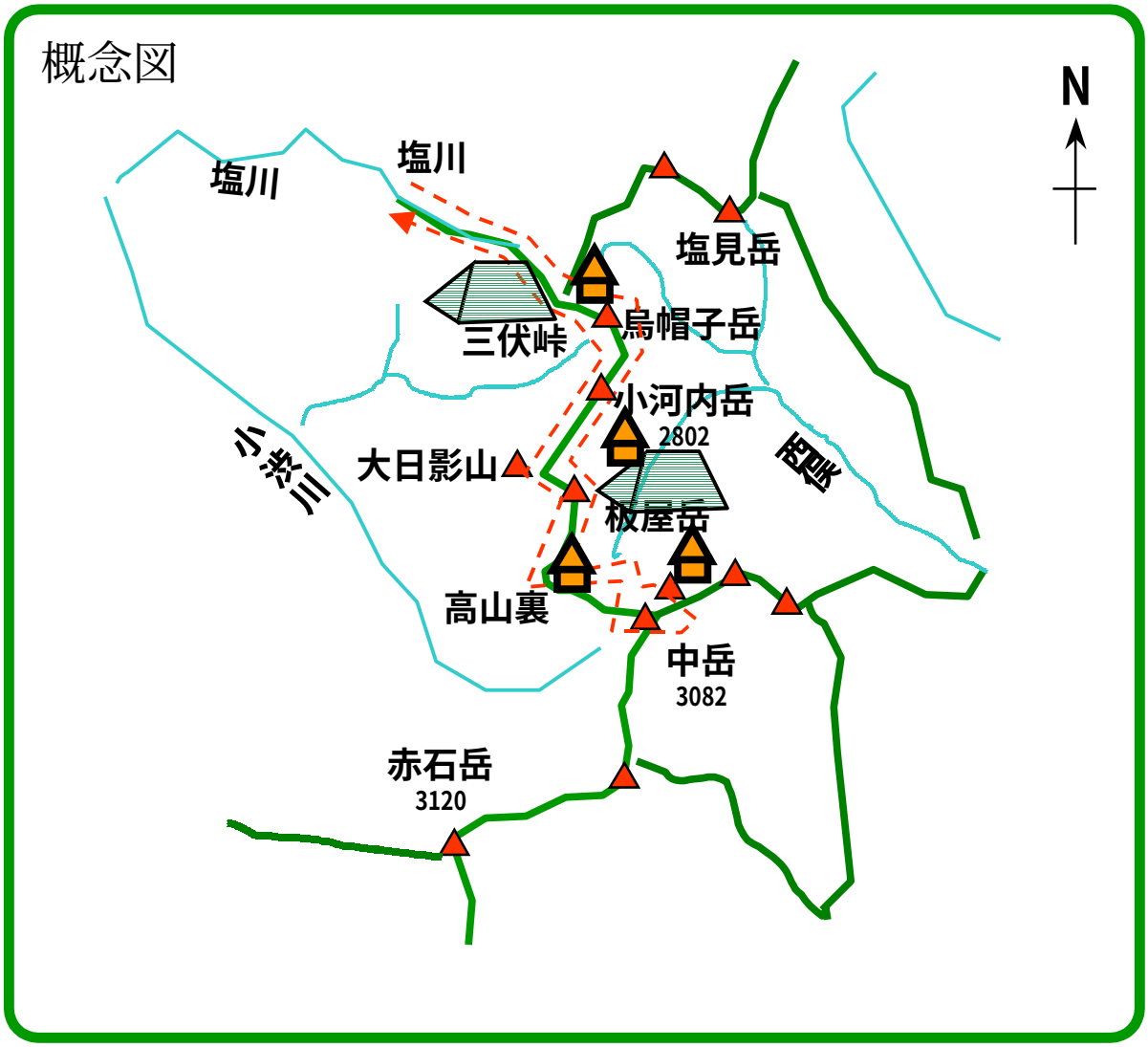
(行動)　今回、入山時期の問題でラッセルに終始したが、久々にラッセルができよい経験となった。特に冬山新人の鈴木にとっては冬山は体力が必要であることを体験できたのが良かったと思う。全体の行動も荒川岳へ登りたいという意思により、常に全力で望めた考える。アタック当日は、天候が良いことを理由に日没後でも高山裏まで来ることができれば大丈夫という考えで行動した。また、稜線の行動でアンザイレンしたことについては、計画最終日については小河内岳の登りで引き返したことについては、ベテランの冷静な判断でよい結果になったと考える。今後の計画に生かすとすれば、予備日は最低一日必要だが、山域によって慎重に計画する必要があることを感じた。

(新人)　山は8年間登っているだけあって、体力面では問題ない。只、雪山の経験が少ないということで雪の上を歩くという面で苦労していたようである。行動を見ていても日一日と雪に慣れるのがわかるくらい、進歩しているので数多くの雪山に登り、経験を重ねて欲しい。
課題があるとすれば、パッキングをコンパクトにする工夫と、一日を歩き通すペースを体得すること。次に何をすべきかを考えて行動するなど、毎回の山行で意識して行動して欲しい。

（ルート）　全体に樹林に覆われた山域であり、山の大きさも非常に感じるルートであった。ポイントのひとつ目は、樹林のトラバースが数回続くが、場所によっては雪崩の警戒が必要である。実際今回も極小規模の雪崩（幅5mくらい）を起こした。二つ目は荒川岳カールから左の尾根上に上がるルート取りである。春合宿の時は、一番手前のルンゼ状をつめたが、やはり、急でも尾根上を登るべきで、今回は視界が利いたのでスムーズに行けたが、しっかり偵察で決めておくべきであった。最後は、稜線上の処理だがやはりこの時期雪庇も発達していないため、さほど苦労せずに通過できたが、慎重に通過したいところである。

（備考）　携帯電話については、春の報告にもあるが、山が奥深いせいか入りにくい山域のようである。どうしても通信したい場合の方法として、メールを事前に書き込み感度の良くなったタイミングで送信する方法があることに、今回気付いた。

最後に、今回予備日を使うことになり、ご心配をおかけしましたが、留守部員の方々をはじめ、差し入れをいただいた方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。　（CL.板倉・記）



【行動記録】

【12月27日】晴時々曇
・塩湯着　21:50（前日）
・起床　5:30
・発(車)　7:00
・車道途中下車　8:00
・塩川小屋　8:45
・沢沿い(1400m)　9:15
・尾根(1750m)　10:40
・尾根(2100m)　12:00
・尾根(2400m)　13:20
・三伏小屋　14:35
・小河内方面偵察　14:50～15:30

出発前夜、塩湯の駐車場でテントを張り明日からのきつい山行に備え眠る。
明けて当日、塩川小屋に向けて車で出発するも、積雪が多く急勾配を登るのが困難な為、途中下車し、小屋の手前より車道を歩く。
塩川より沢沿いの平坦な道を行く。積雪は膝下程あり、古いトレースがかすかに残っている程度で歩きづらい。1ピッチ後少しして尾根に取付き、きつい登りが始まる。
冬山縦走の装備が肩にズッシリと重い。ジグザグに尾根を登っていくも膝下までの雪で思うように高度が上がって行かない。三伏小屋までトップで登りきりたいという意気込みも次第にペースが落ち、結局2ピッチまでで、以降は亀山さん、板倉さんにトップを替わって貰い、なんとか小屋にたどりついた。
当初小河内避難小屋までという計画もあったが、15:00も近いこともあり、本日は三伏小屋までとなった。
三伏小屋には先行パーティーはおらず、小屋内にテントを張る。
夕食まで時間もあり、明日のルート偵察とトレース付けを兼ねて縦走路に向かった。
夕暮れ前多少曇ってはいたが、烏帽子、小河内の雄大な縦走路が目の前に広がる。
小屋に戻り、町田さん差し入れのビールで乾杯、担いできて良かった。
今日は登りがかなりこたえたが、しっかり食べて明日に備える。
小屋内にいると風も無く平穏、床も平らで真冬の山にいる実感が湧かない。
明日も小屋で泊まりたいと願いつつ疲れた体をシュラフにもぐり込ませた。　（記・鈴木）

【12／28（金）】　曇り
【コースタイム】
3：30　起床
5：10　出発（三伏峠冬期小屋）
7：20　烏帽子岳登り
7：40　烏帽子岳
9：00　稜線
12：35　大日影岳手前
16：00　板屋岳

早朝より出発するも、雪の多さとガスの濃さで、慎重にルートを取りながら歩く。　烏帽子岳の登りは結構つらい。　更に2784mピークを越え、しばらく登ると小河内岳頂上である。　東の肩のガスの中に薄っすらと避難小屋が見えている。
ザックを置いてのラッセルをひたすら繰り返し、大日影岳を過ぎルートは南方から東方にカーブする。稜線北側の樹林帯をかなりの距離トラバースするが、積雪が一段と増し、なかなかピッチが上がらない。　トラバースも終わり稜線へ出る登りは雪壁となっており、板倉君がトップで慎重に乗っ越す。　西面の崖の上部をトラバースし再度尾根に上がり、深雪のラッセルをしばらくやるとまもなく板屋岳頂上に着く。
本日の行動はここまでとし、雪面をフラットに整地してテントを設営する。
11時間近い行動にみんなかなり疲れ、テント内での暖かいミルクを最高に美味しく頂く。　その後、少し持参した、焼酎とウィスキーを味わいながら夕食の準備に取り掛かる。　外は穏やかで、月と星がまぶしい程に輝いており、明日の荒川岳登頂に希望を感じさせてくれた。　（記：亀山）

【12／29】晴れ
【コースタイム】

6：15	板屋岳山頂出発
7：40	高山裏小屋
9：55	カールトラバース終点
11：10	尾根終了
12：10	稜線（JP）ーアンザイレン
12：58	荒川岳（中岳）山頂
13：26	稜線（JP）
15：26	高山裏小屋
16：45	板屋岳山頂テント

本日は、樹林帯ということもあり少し明るくなってからの出発とする。昨日同様膝くらいのラッセルが続く。途中めざすピークが見え出し、快晴の空の下聳え立つ姿に否が応でも燃える。高山裏避難小屋では、カモシカがラッセルする姿で出迎えてくれる。
小屋からカールは、夏道どうしにラッセルで進む。ルートは斜面になっているがはっきりわかる。昨日までと違い、荷が軽いのでラッセルも苦にならない。偵察で高巻こうとした岩場は、結局高巻きのほうがいやらしく夏道を慎重に行く。ルート上の雪を落としていると、鎖が出てきて楽に通過。
カール上の雪は、膝上くらいで意外と少ない。ルートをダケカンバのルンゼ右の尾根と決め、取り付く。取り付くと、最初は急で表面がクラストしているため、慎重ジグザグに登る。尾根へ上がっても稜線は遠く。全員無言で一歩ずつ歩を進める。上りながら、タイムリミットの12：00を迎え、ほどなくして稜線に到着。ここで、全員の体調、意思を確認し山頂に行くことに決定する。早速、3人でアンザイレンし稜線を進む。ルートは南側の崩壊を見ながら、雪庇の踏み抜きに注意し、進む。
頂上では、富士山を除き、南アルプスの山々はすべて見渡すことができ、全員来てよかったと感じる。山頂では、時間を気にして早々と下山。下りは、登りの苦労がうそのようにあっというまに高山裏に到着。最後は、板屋岳の登りで夕日に燃える荒川岳をバックにテントへ着。　　（記・板倉）

【12／30】曇り

4:30	起床
5:55	発
9:15	板屋岳付近
11:50	小河内岳登り取付き
13:00	小河内岳登り取付き 地点ビバーク（テント）

4:30に起床し朝食を取り、本日下山のつもりで出発の準備をする。6:00前にはテントを撤収し出発するも雪が降っている。
樹林帯のテン場よりガレ場に出るとすさまじい風雪に足元がおぼつかない。
日の出前でまだ暗く、昨夜からの雪で一昨日のトレースは消え、ルートが分かりづらい。ガレ場から板屋岳尾根の巻き道への取付き点に迷う。西側は崩壊しており、東側は急斜面の積雪が雪崩そうだ。板倉さんと亀山さんがルート確認に向かい、自分は風雪を避けじっと待つ。二人ともなかなか戻って来ず不安がつのる。20分後二人が戻ってきてルートを確認しワカン、アイゼンを装着し出発する。深雪でルートの分かりづらい樹林帯のトラバースを、板倉さんと亀山さんが慎重にルートを確認しながらラッセルして行く。大日影山の台地を過ぎ、ザックを置いてのラッセルを3人で繰り返す。なかなか距離が稼げず、体力だけが消耗していく。小河内岳の登りの取付き前で、一息入れ200mの登りに備える。板倉さんをトップに登りに取付くも、暴風雪の前に前進することが出来ない。眼が開けられず、寒さで手足の指が痛い。一度樹林帯に引き返し、風雪が弱まるのを待ち再度アタックするも、天候回復の気配もなく小河内避難小屋までの登頂を断念し、13:00樹林帯でのテントビバークを決めた。悪天候が続くことを考え、燃料・食料の節約し、衣服を着込み寒さにじっと耐える。

運良く携帯電話がかろうじて入り、各々家族との連絡は取れ、明日下山の旨を告げ一安心する。残り少ないガスで暖を取り、甘いココアで体を温め寒い夜に備えた。ラジオの天気予報に聞き入るが、テントの外の風はなかなか弱まらない。明日の好天に期待をしながら、19:00早々にシュラフにもぐりこんだ。

○12月31日(月)　(快晴)
コースタイム

・起床	5:30	
・発		7:00
・小河内岳山頂		7:40
・前小河内岳付近		9:00
・烏帽子岳山頂		9:45
・三伏峠小屋	10:40	
・尾根(1700m)		12:05
・沢で給水		12:30
・塩川小屋		13:00
・林道着		13:25

＜山行報告＞

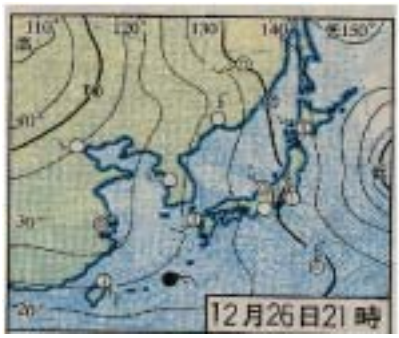
寒さで深夜に何度も目が覚める。起床時間まで何度も時計を見るも時間は大して進んでいない。風は少しあるが月明かりでテント内は明るい。今日は下山できると思うとすぐにでも出発したい気分である。5:30に起床し予備食のジフィーズを食べる。食欲はあまりなく、亀山さんと半分づつにした。テントを撤収し7:00には出発する。天気は快晴、小河内岳への稜線がはっきり見える。板倉さんがトップで200m上の山頂に向けて取付く。風は強くしっかり踏ん張らないとバランスを崩しそうになるが、昨日の暴風雪に比べれば全然問題ない。日差しが暖かく体も良く動く。雪面はクラストしておりワカンの歯を効かせて順調に高度を稼いでいく。途中目の前に富士山が逆光に浮かび上がる。5日目にして初めて見る富士山にしばし登りの苦しさを忘れる。40分で山頂に到着し亀山さん、板倉さんと握手を交わす。下山への最初の難関を越した気分ですこしほっとする。見渡せば360°の大パノラマが広がり、一昨日登頂した荒川岳、雄大な南アルプスの峰々、中央アルプスを望むことができる。しばし風景を目に焼き付け、三伏峠までの長い稜線に向け再び出発する。昨日の雪で稜線上の雪は結構深い。途中アイゼンをワカンに替える。烏帽子岳までの稜線で3パーティー程とすれ違う。入山以来人に会うのは久しぶりだ。光岳まで10日間という単独行の人もいて驚いた。前小河内岳を越し、最後の登りの烏帽子岳山頂で再び冬山の景色を楽しむ。あとは三伏峠までひたすら稜線を歩いて行く。5日間の山行で右膝が痛み始めるが、あとは下るのみと自分を励ましながらひたすら進む。すれ違ったパーティーのトレースを伝い10:40に三伏峠に到着する。入山時一組もいなかった小屋周辺には、たくさんのテントが所狭しと並んでいて驚く。皆正月を山で迎えようとする人たちだろう。三伏峠からの下りはたくさんの入山者で踏み固められており、滑り降りるように順調に下っていける。下から続々とパーティーが登ってくる。7時間近くかかって苦しめられた登りも、2時間20分で塩川小屋に到着できた。あとは足の痛みを我慢し、車をめざしてひたすら車道を歩いた。車に到着しザックの重みから解放された時、5日間頑張り抜いたという達成感よりも、無事帰って来ることができたという安堵感で胸がいっぱいになった。　(記・鈴木)

【装備・食料について】

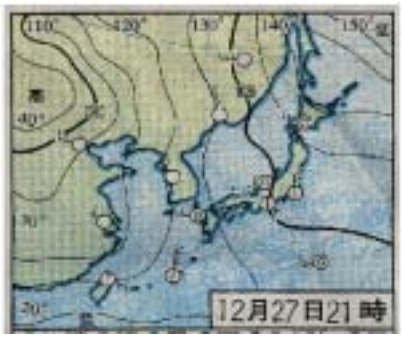
今回、ＥＰＩガスＰ+(Ｌ)-2本,(S)-2本を持っていったが、計画日分については十分あったが、予備日分は暖を取る余裕がなかった。
3人-冬山という条件で
1本(L)／日必要であると考える(重量的には0.6リットル／日よりは軽い)
今回の計画ではL－3本＋予備日S-1本
テントについては、非常に軽く良い。

予備日用ジフィーズについて
ガソリンの節約のために、お湯を入れて時間を待つだけのタイプが良い。

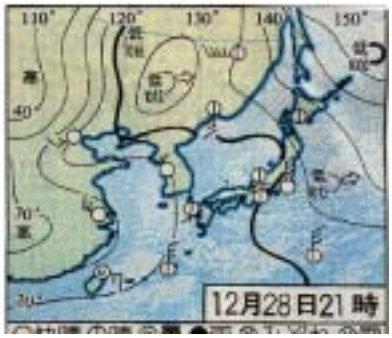
【気象】



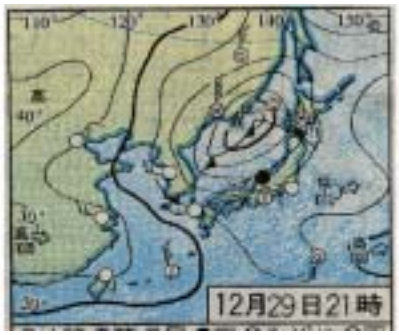
12/27　入山日
天候　　晴れ時々曇り
中央アルプスも良く見える



12/28 三伏峠→板屋岳
天候　曇り
終日曇り、風もあるが樹林帯のため気にせず



12/29 板屋岳→荒川岳往復
天候　快晴後晴れ
午前中は無風快晴、午後ピークあたりでは、ガスが湧き、風も強まる



12/30　板屋岳→小河内岳手前
天候　　雪（風強し）
風のため、ゴーグル着。全員顔に凍傷。小河内岳の登りでは、強風のため通過できず

12/31　小河内岳手前→下山
天候　　快晴（風やや強し）
風は、時々ふらつく程度に強いが、快晴である。5日目にして初めて富士山が顔を出す。

＜鈴木所見＞
初めての冬季縦走を通して、冬山の厳しさと素晴らしさという両面を経験することが出来た。
この厳しい山行を乗り切れたことは今後の自信につながると思う。
しかし、荒川岳を登頂し無事下山することができたのも、板倉さん、亀山さんのラッセルやルート工作、的確な状況判断、精神的なバックアップがあったからと思う。
今回は先輩について行くのが精一杯だったが、もっと努力をして積極的に山行に参加できるように頑張っていきたい。